

# 特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第18期通常総会議事

2023年9月30日（土）9:00～

場所：オンライン会議システムzoom

## 議事次第

1. 開会（司会： 櫻 博子 ）
2. 理事長挨拶：清水善和
3. 総会成立の確認 （報告：奥野玉紀）

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状提出		
正会員	10	24	25	59
割合	16.9%	40.7%	42.4%	100%
		57.6%		

4. 議長の選出：議長・清水善和
5. 議事録署名人の選出：
6. 議事（審議事項）
  - 6.1. 第1号議案：第17期（2021年7月1日～2022年6月30日）事業報告および収支報告
  - 6.2. 第2号議案：第18期（2022年7月1日～2023年6月30日）事業計画および収支予算
  - 6.3. 第3号議案：役員改選
7. 質疑、意見等
8. 閉会  
ガラパゴス写真コンテスト2023

**全ての議案は満場一致で可決しました。**

第 18 期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は、理事/監事/ボランティアを記載した（敬称略）。

<p><b>(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業</b></p>
<p>① 「ガラパゴス写真コンテスト 2022」開催（9 月）。応募作品数 28 点。ガラパゴスの高校生～大学生も応募した。選考は総会後に参加者の投票にて最優秀賞 1 点、優秀賞 12 点を決定。うち 4 点がガラパゴスの若者写真家クラブの作品だった。1 月にガラパゴスから講演者が来た際、この若者写真家クラブ宛への寄付を預けた。寄付はカレンダーの売上の一部から渡した。</p> <p>② 「ガラパゴスカレンダー2023」制作・頒布。コンテスト優秀賞作品を採用。11 月下旬に 700 部印刷完成（ガラパゴス関連イベントがあるため、例年より多めに印刷したが、費用は据え置きだった）。12 月頭に発送開始。ウェブショップ等で頒布 151 部、会員配布 106 部、講演先学校等に進呈 250 部。現地に行けなかったことから、現地への進呈なし。残り約 180 部ほど。制作担当：波形、里見、飯崎、奥野</p> <p>③ 普及活動（講演など）：久米島風森学童（沖縄県、8/10）、千寿桜小学校 6 年生授業＋学校公開「持続可能な社会の作り方」（足立区、9/10）、環境省関東地方環境事務所他「世界遺産管理について」情報提供・発表（オンライン、10/31）、公益社団法人日本技術士会東北本部山形県支部講演（11/11、山形市）、経団連自然保護協議会 NGO 活動成果報告会（1/26、千代田区）、駒場小学校 5,6 年生授業（目黒区、2/8）、足立入谷小学校 5, 6 年生授業（足立区、2/21）、他、企業研修やオンラインでの発表など。</p> <p>④ コーヒープロジェクトの普及：ガラパゴスコーヒーが日本で売れることで、ガラパゴスのコーヒー農家の自立支援になり、日本でのコーヒーの売上の一部や寄付をチャールズ・ダーウィン財団（CDF）に届けることで、現地ではコーヒー農家が CDF と共に外来種の駆除と植林を行い、保全が促進する循環の仕組み。賛同・協力してくださるカフェや珈琲店、企業へアプローチした。</p> <p>プロジェクトの広報に、エクアドル大使館からの招待を受けてフーデックス（Foodex）2023 に出展（3 月 7 日～10 日）。焙煎を依頼した日本焙煎技術普及協会の協力のもと、およそ 4000 杯の試飲を提供し、チラシを配布した。また、同様にエクアドル大使館と共に、東京丸の内（株）丸善エンタランスにて、ガラパゴスコーヒーの販売会を実施した（6 月 22 日～25 日）。</p>
<p><b>(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業</b></p>
<p>① メディア対応：日本テレビ、日本経済新聞、日本放送協会（NHK）、共同テレビジョン、他。</p> <p>② ホームページによる情報発信：1 月のイベントの情報発信</p> <p>③ SNS による情報発信：現地の情報を引用した情報の発信を行った。約 70 記事を発信。担当：波形、奥野</p> <p>④ その他、企業や個別の問い合わせ対応、随時。</p>
<p><b>(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業</b></p>
<p>特になし。</p>
<p><b>(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業</b></p>
<p><b>1) ガラパゴスの島民による保全活動支援</b></p> <p>コロナ禍前までは、ツアーなどでガラパゴスに行った際にカレンダーや寄付を持っていき、島民の方たちが行う保全活動を支援していた。（2019 年には島民の方が行うビーチクリーンに参加した。）特に、「ガラパゴス若者写真家クラブ（Jovenes Fotografos de Galapagos）」については、（1）の当会カレンダー事業と関連して、活動への賛同と支援が続いており、本年度は昨年と今年のカレンダーの売上の一部から、同活動へ寄付した。</p> <p><b>2) チャールズ・ダーウィン財団(CDF)プロジェクト支援</b></p> <p>【海鳥調査】現在 CDF では、チャールズ・ダーウィン研究所においておよそ 20 のプロジェクトが実施されている。JAGA では毎年ペンギン基金より寄付をいただき、CDF がガラパゴス国立公園局と共に行う固有海鳥 3 種</p> <div data-bbox="1082 1691 1436 1926" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1145 1926 1412 1998" data-label="Caption"> <p>CDF の展示ホールではこの活動による写真が掲示されている。</p> </div>

(ペンギン、コバネウ、アホウドリ) の生態調査を支援しており、本年度も会員からの寄付と合わせこれを支援した。調査は資金が不足しており、拡充 (増額) の要望があった。

【スカレシアの森林再生事業】本年度は、BESS フォレストクラブ、JAGA 会員、一般の方、ガラパゴスコーヒーを購入した珈琲店や消費者の方などからの寄付で、サンタクルス島高地のスカレシア (ペデュンクラータ種) の森林再生事業を支援した。サンタクルス島のスカレシアの森は、現在農耕地域になっている場所に広がっていたことから、チャールズ・ダーウィン財団では農地の所有者の農家と共に、外来植物の駆除とスカレシアの植林をするプロジェクトを行っている。農家にとっても外来種は農業の効率を低下させる原因であったため利害が一致した。2021 年度は、賛同した 3 農家、2022 年度はさらに 3 農家が加わり、スカレシア林の再生を行った (計 910 苗を植林)。今後も賛同農家の参画を促していく。また、イサベラ島では同じスカレシアのホルダータ種の森が、サンタクルス島よりも深刻な状況にある。JAGA の仲介により、CDF から直接申請をした経団連自然保護基金の助成金が本年も採択され、支援が続いている。



スカレシアの苗を植える農家の方とお孫さん

### 3) チャールズ・ダーウィン研究所図書室視聴覚資料デジタル化プロジェクト支援

2019 年度より始まった本事業は、前田建設工業株式会社 (東京) の支援により、5 ヶ年の継続した支援 4 年目である。(※本年度、支援金の受領が年度末を過ぎてしまったことから決算書に金額が出ていないが、事業は順調に継続している) デジタル化した資料が以下「ガラパゲアーナ GALAPAGUEANA」サイトにて公開されている (スペイン語と英語の 2 カ国語対応)。

<https://galapagueana.darwinfoundation.org/home.html>

#### (5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

ガラパゴスの市長らからの要請で、島でのゴミ処理について、情報収集および提供をした。

#### (6) 調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

#### (7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

東京都からの委託を受けて「都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定事業」を実施した。

ガラパゴスより、チャールズ・ダーウィン財団理事長、バイオセキュリティ庁長官、スカレシア財団理事長、ナチュラリストガイドの 4 名を招聘し、小笠原父島にて「ガラパゴス諸島のエコツーリズム、観光と保全を両立させる仕組み」講演会 (1/20、@環境省小笠原世界遺産センター&オンライン)、「ガラパゴスにおけるナチュラリストガイドの役割」交流会 (1/21、@同センター&オンライン) を開催。講演会は一般公開され、ライブ参加含め 100 名程の参加があった。また交流会は小笠原の住民で観光に従事している方 30 名程の参加があった。ライブはその後、下記のサイトでアーカイブ公開されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=yb8-3j5th8> (講演会)

<https://www.youtube.com/watch?v=5IS73ZbTwI> (交流会)



講演会 You Tube 映像



交流会 You Tube 映像

イベント終了後、父島クリーンセンター、オガサワラカワラヒワの飼育施設、母島などを視察した。また都内では、エクアドル大使館、支援企業、学校、都庁 (都知事表敬)、JICA、経団連自然保護協議会、などを訪問した。東京都事業 2023 年度について、企画・検討をした。

#### (8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■企業との協働やコラボレーションの企画を進めた。

■その他ファンドレイジングのための活動。

【謝意】東京都事業では、NPO 法人小笠原自然文化研究所、ポニインタープリター協会他、多くの地域団体の方にご協力頂きました。また、ボランティアの赤間亜希さん、今野杏里さん、飯崎晶子さん、JAGA 役員の皆さま、ありがとうございました。

科目		金額(円)		
<b>I 経常収益</b>				
1	受取会費			
	正会員受取会費	270,000		
	その他会員受取会費：個人/団体協力会員、学生会員	423,000	693,000	
2	受取寄付金			
	一般寄付	284,550		
	特定寄付：			
	BESSフォレストクラブ支援協賛金	1,000,000		
	ペンギン基金	50,000	1,334,550	
3	受取助成金	0	0	
4	事業収益			
	普及啓発事業	177,500		
	東京都チャールズ・ダーウィン財団連携協定事業委託事業	6,897,000	7,074,500	
5	その他収益			
	受取利息	17	17	
	<b>経常収益計</b>	9,102,067	9,102,067	<b>9,102,067</b>
<b>II 経常費用</b>				
1	事業費			
(1)	ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業 カレンダー事業、コーヒー事業、講演等	397,724		
(2)	ガラパゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業 ホームページ、SNSによる発信と情報収集	130,788		
(3)	生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	0		
(4)	ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業			
	1)ガラパゴスの若者による保全活動支援	104,000		
	2)チャールズ・ダーウィン財団プロジェクト支援	1,768,673		
	3)チャールズ・ダーウィン財団視聴覚資料デジタル化P支援	0		
		1,872,673		
(5)	ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業	0		
(6)	ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業	0		
(7)	ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業 東京都チャールズ・ダーウィン財団連携協定事業	5,340,389	7,741,574	
2	管理費			
	シェアオフィス利用費	107,690		
	事務局運営委託費	800,000		
	決済システム費	67,423		
	通信費	49,525		
	会議費	0		
	交通費	40,828		
	消耗品費	6,968		
	保険料	7,565		
	事務手続き費	3,365	1,083,364	
	<b>経常費用計</b>		8,824,938	<b>8,824,938</b>
	当期経常増減額			277,129
	法人税、住民税及び事業税			70,000
	当期正味財産増減額			207,129
	<b>前期繰越正味財産額</b>			<b>3,237,347</b>
	<b>次期繰越正味財産額</b>			<b>3,444,476</b>

## 1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

## (1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

## 2.事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	(1)普及啓発事業	(2)情報提供事業	(4)保全支援事業	(7)東京都連携協定事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益							
1.受取会費						693,000	693,000
2.受取寄附金			1,334,550		1,334,550		1,334,550
3.受取助成金等							0
4.事業収益	177,500			6,897,000	7,074,500		7,074,500
5.その他収益						17	17
経常収益計	177,500	0	1,334,550	6,897,000	8,409,050	693,017	9,102,067
II 経常費用							
1.事業費							
(1)普及啓発事業	147,724			250,000	397,724		397,724
(2)情報収集提供事業		30,788		100,000	130,788		130,788
(4)保全支援事業							
若者保全活動				104,000	104,000		104,000
CDFプロジェクト			1,368,673	400,000	1,768,673		1,768,673
CDF図書館デジタル化			0		0		0
(7)東京都連携協定事業				5,340,389	5,340,389		5,340,389
2.管理費				700,000		383,364	1,083,364
経常費用計	147,724	30,788	1,368,673	6,894,389	7,741,574	383,364	8,824,938
(事業別)当期経常増減額	29,776	-30,788	-34,123	2,611	667,476	309,653	277,129

## 3. 使途が制約された寄付金等の内訳

使途が制約された寄付金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。

当法人の正味財産は3,444,476円ですが、そのうち使途が制約された財産はありません。

(円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
BESSフォレストクラブ 支援協賛金	0	1000000	1000000	0	全額を、チャールズ・ダーウィン財団スケーリア森林再生プロジェクト事業に使用しました。

## 4. 役員及びその近親者との取引内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	うち役員および近親者との取り引き
(活動計算書経常収益)		
・受取り会費	693,000	270,000
・事業収益	7,074,500	42,000
(活動計算書経常費用)		
：普及啓発事業	397,724	204,600
：東京都協定事業	5,340,389	600,000
・管理費	1,083,364	800,000

第18期(2022年7月1日～2023年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2023年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	3,500,106	
前払金(シェアオフィス利用料)	29,370	
流動資産合計		3,529,476
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
資産合計		3,529,476
II 負債の部		
1 流動負債		
未払法人住民税等	70,000	
前受会費	15,000	
流動負債合計		85,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		85,000
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		3,237,347
当期正味財産増減額		207,129
正味財産合計		3,444,476
負債及び正味財産合計		3,529,476

第18期(2022年7月1日～2023年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計財産目録

2023年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	7,202	
普通預金 みずほ銀行青山支店	1,201,465	
普通預金 三井住友銀行渋谷駅前支店	1,273,004	
郵便振替口座 ゆうちょ銀行	492,513	
PayPay銀行	525,922	
前払金(シェアオフィス利用料)	29,370	
流動資産合計		3,529,476
2 固定資産		
土地 所在 m <sup>2</sup>	0	
建物 所在 m <sup>2</sup>	0	
車両運搬具 乗用車 台	0	
固定資産合計		0
資産合計		3,529,476
II 負債の部		
1 流動負債		
未払法人住民税等	70,000	
前受会費	15,000	
流動負債合計		85,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		85,000
正味財産		3,444,476

## 第 19 期 2023 年度（2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日）事業計画

第 19 期の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

### (1) 環境教育・普及啓発事業

昨今の、社会における自然環境や持続可能な社会への関心の高まりと共に、ガラパゴスで現在行われている、保全と経済（観光）を両立させる「持続可能な社会」構築に向けた様々な取り組みに対して、日本でも高い関心が寄せられている。講演活動や子どもたちへの出張授業等を通じて、ガラパゴス諸島の科学的価値と共にそれらを伝えると同時に、日本の環境保全や持続可能な社会に向けた取り組みに対して情報を提供する。また日本とガラパゴスを繋げる様々な活動により、企業・団体間や個人間の関係性を深め、ガラパゴスにおける保全事業への支援に繋げる。日本の世界自然遺産地域の管理に資するガラパゴスの自然管理や観光管理について紹介する。

- \* ガラパゴスと小笠原の人的交流、情報交換を行う。※（7）の CDF と東京都の連携協定に基づく事業とも連動。
- \* 「ガラパゴス写真コンテスト」開催、および「ガラパゴスカレンダー」制作、発行。ファンドレイジング／普及や環境教育ツールとしても活用する。
- \* ガラパゴスコーヒーに関して、JAGA が進めるプロジェクトの推進のために、コーヒー豆輸入者との協働や販売の促進、また産地偽装品一掃のための取り組みなどを進める。
- \* 「体験学習ツアー」を企画・実施する。
- \* その他、教育機関等での講演、講師の派遣、出版物への原稿提供や監修など。

### (2) 情報収集提供事業

常にガラパゴス現地の情報を正確に収集すると共に、正しい情報を分かりやすく、手軽に閲覧できる媒体で提供する。

- \* ホームページの活用を進める。ガラパゴスの情報を積極的に発信する。
- \* メルマガ、ホームページ・SNS を活用した会員や一般向けの情報発信を行う。
- \* 教育・科学機関、科学番組への協力・監修、マスコミ対応、情報・写真提供など、随時。

### (3) 環境問題全般情報収集提供事業

近年関心の高まる海洋廃プラ、温暖化、リサイクル、SDGs などについて、情報収集・提供する。

### (4) ガラパゴスの環境保全活動の支援

前年度に引き続き、CDF の行うプロジェクトを支援する。特に、エルニーニョ現象の影響が出やすい海鳥の生態調査、スカレシアの森林再生事業、CDF 図書館資料デジタル化事業を支援する他、CDF が行っている他の活動も支援する。必要に応じて島民団体や教育団体の草の根活動などへの支援を行う。現地との連絡を密にするほか、ツアーを活用して現地視察を実施し、ガラパゴスの現状やニーズについて把握し、必要な支援を行う。

### (5) 国際協力事業

ガラパゴスのゴミ問題の解決に向け、関係機関や企業と連絡・連携を強める。

### (6) 調査研究支援事業

保全研究において、研究者や関係者同士を継続して繋ぎ、情報交換できる仕組みを作る。

### (7) 現地諸機関の運営支援事業

東京都からの委託事業として、ガラパゴスと小笠原を繋ぎ、双方の保全に資する活動を行う。

### (8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・企業や公的機関との関係を強化し、協働事業や支援の働きかけを行う。
- ・NPO を対象にした企業のサービスを活用する。



2023年度 活動予算書

第19期(2023年7月1日から2024年6月30日まで)

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目		金額(円)	
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費			
受取り会費	600,000	600,000	
2 受取寄付金			
一般寄付金	3,800,000		
使途限定寄付	1,500,000	5,300,000	
3 受取民間助成金			
企業助成金、補助金など	0	0	
4 事業収益			
普及啓発事業	50,000		
情報提供事業	50,000		
東京都委託事業	4,000,000	4,100,000	
5 その他収益			
受取利息など	100	100	
経常収益計		10,000,100	<b>10,000,100</b>
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業 カレンダー事業、コーヒー事業	250,000		
(2) ガラパゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業 ホームページ、メールマガジン発行など	250,000		
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	0		
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業			
1)海鳥調査・海洋保全事業	200,000		
2)スカレシア林再生事業	1,000,000		
3)ダーウィン研究所図書室デジタル化支援事業	1,000,000		
4)ダーウィン研究所運営支援	3,000,000		
	5,200,000		
(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業			
(6) ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業			
(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業 東京都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定関連事業	3,500,000		
		9,200,000	
2 管理費			
シェアオフィス利用費	80,000		
事務局運営管理費	400,000		
決済システム費	100,000		
通信費	40,000		
交通費	40,000		
会議費	20,000		
雑費	50,100	730,100	
経常費用計			<b>9,930,100</b>
当期経常増減額			<b>70,000</b>
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			<b>3,444,476</b>
次期繰越正味財産額			<b>3,444,476</b>

## 役員選任（2023年10月1日～2025年9月30日）

理事会より、次期役員を選任に関して、以下の提案および報告を行う（五十音順・敬称略）。

## 1. 理事の重任（9名）

清水 善和（理事長）  
眞板 昭夫（副理事長）  
奥野 玉紀  
海津 ゆりえ  
可知 直毅  
櫻 博子  
里見 嘉英  
西原 弘  
矢ヶ部（倉田） 薫子

## 2. 監事の重任（2名）

枝松 克巳  
波形 克則

## 【備考：当会定款の規定（抜粋）】

（役員の種類及び定数）

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事5人以上12人以内
  - (2) 監事2人以上4人以内
- 2 理事のうち1人を理事長、1人以上3人以内を副理事長とする。

（選任等）

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 （略）
- 4 （略）
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

以上